



せきじま・ひでき 1954年生まれ、月田区出身・滋賀県在住。観光大使から一言「古里をじっくり歩いてみませんか。新しい発見がありますよ。」

## 関島秀樹さん

あらお観光大使・シンガーソングライター

「人生を楽しもうと思うだけで世界は変わります。僕の人生の楽しみはいろいろな人に自分の歌を聞いてもらうことです」と、笑顔を見せるのは、ことし、歌手生活35周年を迎える荒尾市出身の関島秀樹さんです。

関島さんが「伝える喜び」を知ったのは玉名高校3年生のとき。体育祭で応援団長を務めたことがきっかけです。一生懸命頑張れば相手に思いが伝わることを知り、皆で成し遂げることに喜びを感じました。ちよūdōその頃、ギターへの憧れからバンドを始めます。

体育教師を目指し、東京の大学に進学。プロになるつもりはなく、純粹に音楽が好きという気持ちだけでバンド活動に熱中してきましたが、スカウトを機に、24歳でレコードデビュー。しかし、4年で事務所との契約が終了、フリーの歌手として歩むことになりました。

「フリーになつてはじめて真剣に音楽に向き合いたいと思うようになったんです」関島を拠点に活躍するようになった関島さんですが、自身の思いに反し、歌手以外の仕事の依頼

が多くなり、音楽から離れて人生を見つめ直すことを決意します。34歳のとき、全てを捨て、アメリカに旅立ちました。

「アメリカでは音楽には関わらず、アルバイトなどをしながら、現地の人と同じような生活を2年間体験しました。でも、日本と音楽から離れてみて、日本の情緒が恋しくなつたし、自分にはやっぱり音楽しかない気が付かされたんです」帰国後は音楽一本で活動するように。そんなとき、名曲「帰らんちゃよか」が誕生したのです。

「人生は一期一会。若い頃はまた会えると思っていたけれど、今日が人生最後の日になるかもしれない。今は昔よりも一曲一曲を大事に歌っています」東日本大震災で人生観が変わつたという関島さん。命の重さや今を全力で生きることの大切さを再認識したそうです。

「夢のために古里を離れているので、なおさら荒尾が恋しい」と、話す関島さんの楽曲には荒尾を歌つた曲がたくさんあります。これからも関島さんは古里に思いをはせながら、夢や希望の歌を届けてくれます。

※関島さんの作詞・作曲。演歌歌手・島津亜矢さんに提供され、親子がテーマの多くのファンに愛されている曲。



1. 平成11年、いつも支えてくれたばってん荒川さんと荒尾総合文化センターで共演。ことしの8月、同会場でデビュー35周年記念コンサートを行います。2. 体育祭での応援対戦。3. 「一瞬でも歌で東北の人たちを癒したい」と、被災地を度々訪れています。4. 平成20年から観光大使として荒尾をPRしてもらっています。写真は観光大使委嘱状交付時のもの。